

令和4年度 大津市立和邇小学校学校評価書

【評価】 ③:よくできた ②:できた ①:あまりできなかった ①:まったくできなかった

項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて	
		小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
主體的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	2	2	○学級会を軸として、学級・学年づくりをできている学年が多く見られた。 ○少しずつ学び合う場面設定ができるようになってきたので、子ども同士で話す場を持つようにしている。 ○校内の授業研究会では、教師同士が授業の悩みを交流し合うことによって、普段の授業をふり返り質を高める機会になっている。 ●委員会活動やクラブ活動など、学級以外の活動での話し合いの力は、育っていない。	3	○「読み解く力」に力点を置いた授業研究に取り組んでほしい。 ○教員全体のスキルを上げる学びは重要だと思う。どの教員も一定のスキルがあることは安心につながる。 ○自分の考えや意見をそれぞれの児童がしっかり持って、それを発表できる機会が多く持てるとうい。	○学級会・グループ交流など、若手教員はコロナ禍指導経験が少ないため、校内研究会やOJTなどを通して学んでいく機会を作る。 ○学級会など、話し合いのルールを学校全体で共通理解していくことが必要である。 ○視覚支援や学力を高めるツールとしてのiPadの有効活用の仕方や教職員同士が交流したり研修したりする機会をつくり更なる授業の工夫改善につなげる。 ○集団づくりのためのスキルを全教職員で上げられるように学ぶ必要がある。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	2					
	3	主體的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。	2					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	2	2	○毎月1回の人権の日の取り組みを通して、すべての学年の教師が様々な道徳的価値観の話を全校の児童に行うことができた。 ○クラスや学級の実態に合わせた教材を用意し、道徳的実践力を育てる指導を工夫することができた学年があった。 ○分散参観を通して、多くの学級が道徳の授業を保護者に公開することができた。 ○●道徳科の学習では、交換授業に取り組んでいる学年が少なかったが、中間評価を受け、3学期になり多くの学年で取り組むことができた。	2	○児童一人ひとりがTPOに応じて望ましい行動がとれるよう、道徳の授業を充実してほしい。 ○道徳の授業を取り上げて交流することは少なくなっていると感じるので、そういう機会が年に1回でもあればよいと思う。 ○「道徳参観」として学期を指定し、校内で取り組む。また、道徳主任から「横書き板書」の方が子どもの思考を深めやすいと聞き、取り組んでいる。今後、研究の余地があると感じる。他社の道徳の教科書や学校全体で使える道徳教材が豊富にあると良いと思う。	
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。	2					
	6	積極的に保護者等への道徳科の授業公開を行った。	2					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	2	2	○体育等、体を動かす時間を増やすようにしている。子ども同士で場を設定したり、準備がスムーズにできるよう指導したりして時間確保に取り組んでいる。 ○縄跳び大会やチャレンジマラソンなど、年間を通して体力づくりに学校をあげて取り組むことができていたため、多くの児童の頑張っている姿が見られる。 ●体育の宿題は、毎日出していたが、やりっ放しで振り返る時間をとることができなかった。 ○●コロナ禍ではあるが、委員会活動や学校行事等で運動に親しむ環境づくりができたが、継続的にはできていないので、今後はそこが課題になると思われる。	2	○体育の宿題に振り返りができないことは、保護者にも実感としてあるので、ぜひ何かしら実施してほしい。 ○カヌー体験を復活してはどうかと思う。近くにいい環境があるので。 ○学区全体で、体力づくりに取り組めるとうれしく思います。 ○楽しんで体を動かす工夫、企画は大変良いと思う。	
	8	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	2					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	2					
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。	2	2	○毎日10分のぐんぐんタイムに全校で漢字学習に取り組んだことで、普段の国語科学習にじっくり取り組むことができています。 ○校内研究授業を通して、教師間の授業づくりの意識はそろい始めていると感じる。 ○ICT機器を活用することで、より視覚的に分かりやすく、子どもにも興味関心や見通しを持たせられるようになったと感じる。 ○ICT機器の導入によって、学年間で教材を共有できるようになり、教材作成にかかる時間も短縮された。 ●年間10回のガッテンタイムの持ち方に課題を感じる。	2	○学学テスト結果分析資料(SP表や学力層分析グラフなど)を活用し、和邇小の学力課題を明かにした上で、研究・指導内容を焦点化し、指導改善を進めてほしい。 ○パソコンやタブレットを使った活動も大事であるが、漢字や計算など手で書く活動、練習は必ず必要だと思う。 ○本に興味を持つ工夫・仕掛けは重要かと思う。	
	11	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。	2					
	12	働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。	2					

項目			自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて										
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等											
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	13	2	2	<p>○PTA主催で子育て講演会を行うことができた。また、講演を録画しWeb配信を行うことができた。</p> <p>○学期に1回以上は分散参観・運営協議会を開催し、児童の様子を保護者や地域に公開する事ができた。</p> <p>○参観では、保護者参加型の学習を考えた。</p> <p>○和邇学区防災防災会にサポートをいただき、6年生の総合的な学習で多くの体験活動を取り入れた防災教育を実施することができた。また、教育課程にも組み入れることができています。</p> <p>●保護者との交流があまりできていないと感じる。</p>	2	<p>○平日は保護者が学校に足を運びづらい状況なので、今後どのようにコミュニケーションを取っていくのが課題かと思われる。Webの活用を進めてほしい。</p> <p>○地域の事業所、企業、福祉施設などの出前講座、大手企業の出張授業を無理のない程度に進めてほしい。</p> <p>○地域との連携に不安を感じている。</p>	<p>○子育て講演会の参加者が少なかったが、Web配信を行うことができたため、今後もそのスタイルを続けていけると良い。</p> <p>○防災教育は、指導マニュアルを作成し、誰でも実践できるようにする必要がある。</p> <p>○地域の方に講師をお願いしたり、サポートしていただいたりした学習については、毎年続けていけるように、年間指導計画に位置づけていく。</p> <p>○地域の商工会を窓口として、出張授業や訪問の依頼・調整ができると教えていただいた。学年で系統立てて依頼する機会を設定して行くことが必要である。</p>										
		14	2						2	<p>○5・5交流では、今年度から3園と交流できるように計画した。1園につき1クラスの担当を決め、年間で3回の交流を行うことができた。</p> <p>○秋祭りでは、幼稚園・保育園の年長を招待し、1年生と交流を行うことができた。</p> <p>○特別支援学級クラスでの授業体験や授業見学など園からの要望にできる限り応じることができた。</p> <p>●子ども達の交流は復活してきたが、教師間の交流の復活がまだ十分できていない。</p> <p>●校区研の実施がなく、校種間の交流は難しかった。</p>	2	<p>○秋祭りと5・5交流は、1年生と5年生の年間指導計画に組み込むことができているため、今後も引き計画的に行うことが大切である。</p> <p>○図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保・幼で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</p> <p>○中学校との交流、特に教師間の交流の機会が必要。</p>						
		15	2										2	<p>○5・5交流では、今年度から3園と交流できるように計画した。1園につき1クラスの担当を決め、年間で3回の交流を行うことができた。</p> <p>○秋祭りでは、幼稚園・保育園の年長を招待し、1年生と交流を行うことができた。</p> <p>○特別支援学級クラスでの授業体験や授業見学など園からの要望にできる限り応じることができた。</p> <p>●子ども達の交流は復活してきたが、教師間の交流の復活がまだ十分できていない。</p> <p>●校区研の実施がなく、校種間の交流は難しかった。</p>	2	<p>○秋祭りと5・5交流は、1年生と5年生の年間指導計画に組み込むことができているため、今後も引き計画的に行うことが大切である。</p> <p>○図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保・幼で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</p> <p>○中学校との交流、特に教師間の交流の機会が必要。</p>		
	保幼小中の連携	16	2	2	<p>○5・5交流では、今年度から3園と交流できるように計画した。1園につき1クラスの担当を決め、年間で3回の交流を行うことができた。</p> <p>○秋祭りでは、幼稚園・保育園の年長を招待し、1年生と交流を行うことができた。</p> <p>○特別支援学級クラスでの授業体験や授業見学など園からの要望にできる限り応じることができた。</p> <p>●子ども達の交流は復活してきたが、教師間の交流の復活がまだ十分できていない。</p> <p>●校区研の実施がなく、校種間の交流は難しかった。</p>	2	<p>○秋祭りと5・5交流は、1年生と5年生の年間指導計画に組み込むことができているため、今後も引き計画的に行うことが大切である。</p> <p>○図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保・幼で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</p> <p>○中学校との交流、特に教師間の交流の機会が必要。</p>											
		17	2					2	<p>○5・5交流では、今年度から3園と交流できるように計画した。1園につき1クラスの担当を決め、年間で3回の交流を行うことができた。</p> <p>○秋祭りでは、幼稚園・保育園の年長を招待し、1年生と交流を行うことができた。</p> <p>○特別支援学級クラスでの授業体験や授業見学など園からの要望にできる限り応じることができた。</p> <p>●子ども達の交流は復活してきたが、教師間の交流の復活がまだ十分できていない。</p> <p>●校区研の実施がなく、校種間の交流は難しかった。</p>	2	<p>○秋祭りと5・5交流は、1年生と5年生の年間指導計画に組み込むことができているため、今後も引き計画的に行うことが大切である。</p> <p>○図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保・幼で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</p> <p>○中学校との交流、特に教師間の交流の機会が必要。</p>							
		18	2									2	<p>○5・5交流では、今年度から3園と交流できるように計画した。1園につき1クラスの担当を決め、年間で3回の交流を行うことができた。</p> <p>○秋祭りでは、幼稚園・保育園の年長を招待し、1年生と交流を行うことができた。</p> <p>○特別支援学級クラスでの授業体験や授業見学など園からの要望にできる限り応じることができた。</p> <p>●子ども達の交流は復活してきたが、教師間の交流の復活がまだ十分できていない。</p> <p>●校区研の実施がなく、校種間の交流は難しかった。</p>	2	<p>○秋祭りと5・5交流は、1年生と5年生の年間指導計画に組み込むことができているため、今後も引き計画的に行うことが大切である。</p> <p>○図書館教育において、毎年スタートカリキュラムのアンケートが実施されているが、保・幼で読まれている本、接続期にふさわしい読み聞かせの本の選定は行われていない。今後、検討の余地があるか考えていく必要がある。</p> <p>○中学校との交流、特に教師間の交流の機会が必要。</p>			
組織体制の充実	生徒指導体制の充実	19	3	3	<p>○いじめ事案は早期対応し、すべての案件で対策委員会を開き、複数対応を徹底することができている。</p> <p>○1か月に1回いじめアンケートをおこなっていることで、いじめの早期発見につながっている。</p> <p>○不登校児童について、1人ひとり対応を協議し、学校として対応している。</p> <p>○気になる言動やトラブル等その都度、児童と時間をとって話し、生徒指導・教育相談と連携して、組織的に対応した。また、家庭や関係機関との連携による指導に努めた。</p> <p>○報連相の仕組みがうまく浸透している。組織で対応する必要性をしっかりと理解している。</p>	3	<p>○人権教育を各学年での実施に期待している。</p> <p>○担任一人が抱え込むことがないよう教師間の相談体制をしっかりと整えていくことが必要である。</p> <p>○1か月に1回のアンケート実施が、いじめ早期発見につながっているのではないかと。</p> <p>○生徒指導の業務が長引き、本来の業務を圧迫することは早急に改善すべき。</p>									<p>○会議の効率化と、いじめや生徒指導事案の予防に力を入れていくことが大切である。</p> <p>○予防指導の観点から、子どもに近い存在で一緒に遊んだり、学習サポートをしたりしてくれる学生の人材活用を進める。</p> <p>○6年生で行われている人権教育指導が下学年でも行われるようにする。</p> <p>○未然防止のための指導が重要だと考える。どんな些細なことでも、未然防止の観点を忘れずに取り組む。</p>		
		20	3					3	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	3	<p>○人権教育を各学年での実施に期待している。</p> <p>○担任一人が抱え込むことがないよう教師間の相談体制をしっかりと整えていくことが必要である。</p> <p>○1か月に1回のアンケート実施が、いじめ早期発見につながっているのではないかと。</p> <p>○生徒指導の業務が長引き、本来の業務を圧迫することは早急に改善すべき。</p>						<p>○会議の効率化と、いじめや生徒指導事案の予防に力を入れていくことが大切である。</p> <p>○予防指導の観点から、子どもに近い存在で一緒に遊んだり、学習サポートをしたりしてくれる学生の人材活用を進める。</p> <p>○6年生で行われている人権教育指導が下学年でも行われるようにする。</p> <p>○未然防止のための指導が重要だと考える。どんな些細なことでも、未然防止の観点を忘れずに取り組む。</p>	
		21	3									3	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	3	<p>○人権教育を各学年での実施に期待している。</p> <p>○担任一人が抱え込むことがないよう教師間の相談体制をしっかりと整えていくことが必要である。</p> <p>○1か月に1回のアンケート実施が、いじめ早期発見につながっているのではないかと。</p> <p>○生徒指導の業務が長引き、本来の業務を圧迫することは早急に改善すべき。</p>			<p>○会議の効率化と、いじめや生徒指導事案の予防に力を入れていくことが大切である。</p> <p>○予防指導の観点から、子どもに近い存在で一緒に遊んだり、学習サポートをしたりしてくれる学生の人材活用を進める。</p> <p>○6年生で行われている人権教育指導が下学年でも行われるようにする。</p> <p>○未然防止のための指導が重要だと考える。どんな些細なことでも、未然防止の観点を忘れずに取り組む。</p>
	特別支援教育の充実	22	2	2	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	2	<p>○特別支援教育の充実には、家庭や地域の理解が不可欠である。今後も、情報発信を続けてほしい。</p> <p>○子どもだけでなく保護者の相談体制、支援体制を確立する。</p> <p>○支援に必要な児童は増加傾向にあると思う。外部・地域の応援が必要な時は、協力させていただきます。</p>									<p>○学校全体として個別の支援体制を考える会議を年間2回は継続的に開いていくことが必要である。</p> <p>○個別の支援計画では、支援内容の明確化と焦点化をはかることにより、担任による支援が無理のないものにしていく。</p> <p>○関係機関との連携の取り方が見えない部分があるため、研修や情報の交流をする機会が必要である。</p> <p>○高学年の障害児理解教育を計画的に実施できるよう進めていく。</p>		
		23	2					2	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	2	<p>○特別支援教育の充実には、家庭や地域の理解が不可欠である。今後も、情報発信を続けてほしい。</p> <p>○子どもだけでなく保護者の相談体制、支援体制を確立する。</p> <p>○支援に必要な児童は増加傾向にあると思う。外部・地域の応援が必要な時は、協力させていただきます。</p>						<p>○学校全体として個別の支援体制を考える会議を年間2回は継続的に開いていくことが必要である。</p> <p>○個別の支援計画では、支援内容の明確化と焦点化をはかることにより、担任による支援が無理のないものにしていく。</p> <p>○関係機関との連携の取り方が見えない部分があるため、研修や情報の交流をする機会が必要である。</p> <p>○高学年の障害児理解教育を計画的に実施できるよう進めていく。</p>	
		24	2									2	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	2	<p>○特別支援教育の充実には、家庭や地域の理解が不可欠である。今後も、情報発信を続けてほしい。</p> <p>○子どもだけでなく保護者の相談体制、支援体制を確立する。</p> <p>○支援に必要な児童は増加傾向にあると思う。外部・地域の応援が必要な時は、協力させていただきます。</p>			<p>○学校全体として個別の支援体制を考える会議を年間2回は継続的に開いていくことが必要である。</p> <p>○個別の支援計画では、支援内容の明確化と焦点化をはかることにより、担任による支援が無理のないものにしていく。</p> <p>○関係機関との連携の取り方が見えない部分があるため、研修や情報の交流をする機会が必要である。</p> <p>○高学年の障害児理解教育を計画的に実施できるよう進めていく。</p>
		25	2															
学校満足度	25	2	2	<p>○個別の支援計画の作成については、年間に2回検討する会議を開いている。また、支援計画のある児童について校内で支援体制を相談し、計画的に支援を行うことができています。就学相談等に関しても、組織的に動くことができた。</p> <p>○通級指導教室、養護学校の教員と連携し支援体制の相談や指導方法の助言を仰ぐことができています。</p> <p>●個別の支援計画は作成したが、それに基づいての支援が他の児童の対応もあり、なかなかできなかった。</p>	2	<p>○特別支援教育の充実には、家庭や地域の理解が不可欠である。今後も、情報発信を続けてほしい。</p> <p>○子どもだけでなく保護者の相談体制、支援体制を確立する。</p> <p>○支援に必要な児童は増加傾向にあると思う。外部・地域の応援が必要な時は、協力させていただきます。</p>	<p>○学校全体として個別の支援体制を考える会議を年間2回は継続的に開いていくことが必要である。</p> <p>○個別の支援計画では、支援内容の明確化と焦点化をはかることにより、担任による支援が無理のないものにしていく。</p> <p>○関係機関との連携の取り方が見えない部分があるため、研修や情報の交流をする機会が必要である。</p> <p>○高学年の障害児理解教育を計画的に実施できるよう進めていく。</p>											